



福山市特産の保命酒を使つた菓子を開発、発売

市教委スポーツ振興課の田曾信義課長は「水泳の普及、発展のため有効活用する」としている。

寄付する小型ビート板などを確認する中島専務

# 保命酒菓子の収益で水泳具

福山の商店 市教委寄付へ

H17.6.29

した菓子原料販売の中島商店（福山市御船町）は、収益の一部で水泳の小型ビート板など（四万円相当）を購入し、近く市教委に寄付する。同市緑町のローズアリーナが保管し、市水泳連盟の選手や市民に貸し出す。

寄付するのは、通常より一回り小さい小型ビート板十五枚、足に挟み腕の筋力を鍛える時に使うスポンジ状の「ストロークブイ」四十個。市水泳連盟所属選手の中島基晴専務（三七）が、地元選手のレベルの底上げを狙つて選んだ。

同商店は四月下旬、地元の保命酒蔵元・岡本亀太郎本店などと協力し、あめやアイスキャンデーなど五品目を発売。中島専務は「多くの市民らに買ってもらい一定の収益が出た。スポーツ振興を通じ、地域活性化につながれば」と話している。